

南半球便り（その 12）：西シドニー出張

4 月 30 日

4 月 19－23 日までシドニーに出張してきました。昨年末に赴任後，早くも 3 回目のシドニー。今回の目的は，西シドニーのインフラ開発等の視察です。日本企業が進出しているビジネスの現場を学び，日豪関係強化の観点から大使館として可能な限りの支援をしていきたいとの気持ちで向かいました。

1. 日本企業の広範な進出ぶり

長らく，日豪貿易関係は「補完的」と形容されてきました。豪州から，羊毛，農産物，石炭・鉄鉱石等の原料を輸出，日本からは自動車，機械等を輸出。互いに無いものを補い合ってきたという意味です。最終日に訪れた日清製粉が買収したアライド・ピナクル社の製粉工場は，その一例でした。豪州ならではの規模に圧倒されました。



アライド・ピナクル社工場(ピクトン工場)外観

同時に，日豪貿易・投資関係の緊密化に伴い，下記のとおり，別の次元の協力が進みつつある模様も目の当たりにしてきました。

(1) 建設業

シドニーに隣接するパラマタ市では，中心部のオフィス・ビル建設を大林組が受注。大手町や虎ノ門で見かけるような最新デザインの 50 階を超える高層ビルが次々に建設されつつあります。壮観でした。



パラマタ市オフィス・ビル建設現場にて

（２）住宅産業

積水ハウスが作った高級マンション、大和ハウスと小田急電鉄が手がけている高級分譲住宅の展示場を視察。スペースを有効活用した収納の設置など、日本のメーカーならではの、きめ細かな配慮に感心。同時に、豪州らしいスケールの大きさと生活の質の高さを感じさせる印象的な構造と間取りでした。



積水ハウスのモデルハウスにて



大和ハウス・小田急電鉄のモデルハウスにて

(3) 製造業

トヨタ自動車のパーツセンター（部品倉庫）と、ダイキンの製造工場・ロジスティクスセンターを視察。図書館のように精緻な部品の分類・管理や、安全性に徹底的に配慮した運営振りに感嘆しました。



トヨタ自動車のパーツセンターにて



ダイキンの製造工場にて

(4) 交通インフラ

丸紅を含むコンソーシアムが運行しているメトロ(地下鉄)北西線に乗車。駅舎、車両ともに清潔で、無人運行の乗り心地は快適でした。



シドニーメトロ（北西線）の車両基地・駅にて

（５） まちづくり

４月よりシドニーに事務所を構え、西シドニー空港周辺地区等の都市開発に取り組んでいるUR都市再生機構と意見交換。日本での街作りの経験をシドニーで生かすことが期待されています。



UR との意見交換

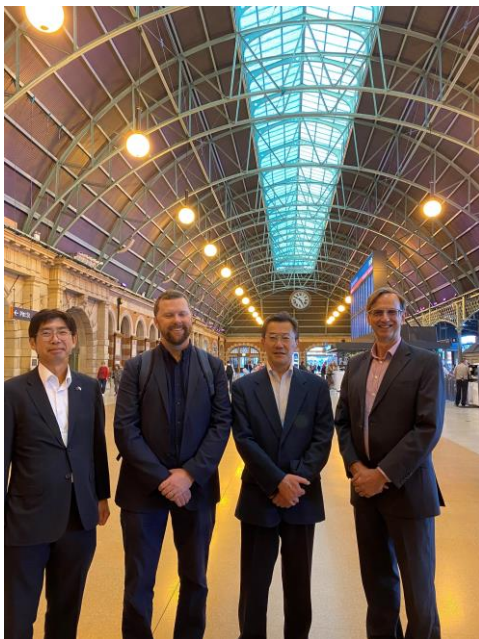
２． 豪州側の熱い視線

シドニーを州都とするニューサウスウェールズ州は、日立、NEC、NTT等の日本企業と覚書きを結び、西シドニー開発に取り組んでいます。人口500万人を超える大規模都市圏に急成長したシドニーにとって、湾岸部の開発はもはや限界。内陸側の西シドニーに新空港を建設し、スマート・シティの建設を企図。それ故に、様々な分野で資金力と技術・経験を有する日本企業による投資と参画が強く期待されている次第です。



西シドニー空港建設予定地にて

西シドニー空港の建設現場のみならず、シドニー中心部でテクノロジー・ハブとして設置されようとしている「テック・セントラル」や、パラマタ市で医療・研究・教育訓練機関の集積地区として期待されている地区も、視察しました。いずれにおいても、豪州側関係者からは日本企業への並々ならぬ期待が表明されました。



テック・セントラル予定地（中央駅）、ウェストミード地区にて

「補完的な貿易関係」を遙かに越えた、街作りやインフラ開発といった面で日豪の関係者が緊密に協力する時代を迎えているのです。シドニー、キャンベラ、メルボルン間の移動が話題になった時、何人かの豪州人から「オーストラリアにも新幹線があればなあー」という嘆息に似た声が発せられたのも、こうした文脈で理解できるかもしれません。

3. ハワード元首相との意見交換

折角シドニーまで出向いたので、一回目の出張でご挨拶したハワード元首相ご夫妻を夕食に招待しました。二つ返事で紀谷シドニー総領事公邸での夕食に応じていただきました。

豪州政治ウォッチャーによれば、「近年の首相の中で最も長期（11年間）にわたって務めただけでなく、最も人気が高い。」と評される政治家。なるほどとうなずける程、全く気取らない人なっつこい性格の上、大物首相としてのオーラを存分に感じさせる方でした。

「何を話したのか？」ですか。それは、日豪双方の「国家機密」です（笑）。



ハワード元首相ご夫妻と総領事公邸にて

4. テレビ・インタビュー

微力ながら「日本」を売り込むため、出張で地方に赴くたびに地元メディアのインタビューを受けることにしています。今回は、シドニー・モーニング・ヘラルド紙とSBSテレビのインタビューを受けました。【インタビュー記事等は、[ここ](#)でご覧いただけます。】

5. 環境保護に当たっての日豪協力

丁度シドニー滞在中に、『セーブ・ザ・リーフ～行動する時～』というタイトルの自然ドキュメンタリー映画の上映会が開催されました。プロデューサーの飯島浩樹氏の依頼を受け、私からも簡単に挨拶を申し上げました。【挨拶文は[こちら](#)。】地球温暖化によって沖縄の久高島や豪州のグレート・バリア・リーフで進みつつある珊瑚礁の白色化現象に如何に歯止めをかけるか？こうした環境問題への対応に当たっても日豪間で協力する余地が大きいことを改めて認識させてくれる力作でした。

上映化の席上、かつて鹿島アントラーズで活躍した元サッカー日本代表の田代有三選手にお会いできたのは、嬉しい驚きでした。茨城県警に出向して水戸で勤務していた頃、カシマスタジアムを沸かせていたストライカーです。爽やかな笑顔が実に印象的で、豪州の地で活躍する日本人の幅の広さと層の深さを象徴するような出会いです。



映画上映会にて

山上信吾